

農地中間管理機構について 耕作放棄地の活用を!



花見川区の区名の由来となっている花見川周辺の活用を望む声は多数上がっております。河川周辺の美化と併せて、周辺の耕作放棄地を活用し、リクリエーションやアウトドア活動などの拠点整備が多くの県民から求められています。

千葉県の農地中間管理機構を活用して、農地の集約化を進めるなどして、耕作放棄地を解消し、農地に隣接した土地に農家レストランを開設するなど、新しい都市型農業の推進を提案しました。

農地中間管理機構とは、改正農業経営基盤強化促進法(令和5年4月施行)において法定化された「地域計画」に基づき、所有者不明農地、遊休農地も含め所有者等から借受け、担い手等へ貸付を行い、農地の集積・集約化を進めていく団体です。



特別全国障害者スポーツ大会

10月21日から、鹿児島県で、特別全国障害者スポーツ大会が開催されました。千葉県・千葉市の選手団を激励するため、千葉県議会スポーツ振興議員連盟の一員として、開会式と陸上競技の会場となる鹿児島市の白波スタジアムに足を運びました。

雄大な桜島を背景に望む会場で開催された開会式は地元の方々のおもてなしの心に溢れ、全国から集ったアスリートの祭典に相応しい華やかなものでした。

開会式後は、会場にて、しばし千葉県・千葉市選手団の活躍に声援を送るとともに、千葉県における障害者スポーツの現状と課題について、選手団の方々と意見交換しました。健常者の全国大会が「国民体育大会」と呼ばれるのに対して、障害者の同規模の大会の名称が全く異なり、競技種目も限定されるなど、健常者のスポーツとは異なる多くの課題が残されていることを痛切に感じる良い機会となりました。

障害の有無に関わらず、皆が等しく、心身の健康を培うために、スポーツに取り組める社会づくりを今後とも推し進めてまいります。



皆様の県政に対するお声をお寄せください!

千葉県議会議員

田村こうさく

千葉県議会 公明党控室 〒260-0855 千葉市中央区市場1-5

LINE 友だち追加をお願いします



FAX.043-227-9162

Email:kosakutamura@gmail.com

https://tamura-kosaku.com

www.facebook.com/kosaku.tamura

drkosakutamura

千葉県議会議員

田村こうさくNEWS

2024
春号



https://tamura-kosaku.com www.facebook.com/kosaku.tamura drkosakutamura

千葉県議会 令和5年9月議会



令和5年9月定例県議会が、9月13日から10月11日まで開催されました。議案17件、諮問2件、報告4件について審議しました。また令和4年度決算の審査も併せて行われました。

補正予算として、令和5年度一般会計予算は、約80億円を追加して、今年度予算は約2兆2261億円となりました。一時は、コロナ対策のため国から交付される補助金により膨れ上がった一般会計予算もやっとコロナ前の水準となりました。一方で、一般的には「自治体の貯金」と考えられている財政調整基金は、昨年度決算を受けて約32億円を追加して、約532億円となりました。

9月議会は、前年度予算の決算額が確定した後、その収支差金が繰り入れられることによる補正が主となります。一般会計の他、工業用水会計、港湾整備事業などの特別会計も同様に今定例会で補正されました。

待望の千葉県総合救急災害医療センターが11月1日にオープンしました。従来からの救急医療の拠点機能に加えて、大規模災害時の救急医療拠点、更には隣接する千葉県精神科医療センターの機能も併せ持った病院が誕生しました。

代表質問 1 | ちばリトルベビーハンドブックについて

「ちばリトルベビーハンドブック」は、従来の母子手帳に加えて、千葉県内にお住まいの出生体重が概ね1,500g未満のお子様とご家族にお配りするものです。従来の母子手帳では、1,000g未満のお子さんの成長記録を記載する欄がなく、低出生体重のお子さんは長期間に亘り成長を記録することが出来ませんでした。

我が子の成長を「記憶」とともに、「記録」に留めておきたいとの切実な声に応えて、我が会派としても繰り返し作成を要望してきましたが、9月より配布が開始されました。今回作成された「ちばリトルベビーハンドブック」には、成長の記録のみならず、医師・看護師など、小児医療に携わる医療従事者からのメッセージや心温まる先輩ママからのメッセージがたくさん記載されています。

その一つをご紹介します。妊娠24週で体重482gのお子さん(現在5歳)を出産されたママからのメッセージです。

「あんなに不安だった日々を忘れそうなくらい毎日元気に過ごせています。大丈夫!笑える日は絶対に来る!」

これからも、子育てに不安を抱えるママたちを強力に応援してまいります。



代表質問 2 | 千葉県総合救急災害医療センターについて

新たに加わった機能である大規模災害時における救急医療対応について質問しました。近年、顕在化している気象変動による大規模な自然災害が多発しております。それら大規模災害に対応するためには、都道府県内はおろか、ときには都道府県を跨ぐ広域での対応が求められます。

最近では、2016年に発生した熊本地震の際に、千葉県のDMAT(災害派遣医療チーム)やDPAT(災害派遣精神医療チーム)が現地に派遣され救援活動に参加しました。今後、千葉県も他都道府県からの支援が必要となる可能性は否定出来ません。その際の受入拠点が新しい救急医療センターです。



千葉県総合救急医療センター開設!

待望の千葉県総合救急災害医療センターが11月1日にオープンしました。従来からの救急医療の拠点機能に加えて、大規模災害時の救急医療拠点、更には隣接する千葉県精神科医療センターの機能も併せ持った病院が誕生しました。新しい救急医療センターの大きな3つの特徴は以下の通りです。

第一に、広域での救急医療に対応するため、屋上に25m×25mのヘリポートを配備するとともに、大規模災害時には大型のヘリも着陸できる50m×50mの大型ヘリポートが隣接地に設置されました。

第二に、コロナなどの感染症対策として、ICU(集中治療室)には感染症に対応するため陰圧室(2床)が設置されました。陰圧室とは、空気圧を調整して、ウィルスなどの空気感染を防止する機能が施された病室です。

第三に、感染症に罹患した可能性が高い患者が搬送された場合には、本館へのウィルス混入を抑えるため、ウィルス検査などのトリアージが行える別棟が新設されました。従来は、酷暑や厳寒の折にも、屋外にて狭い救急車の中でのトリアージを余儀なくされてきました。



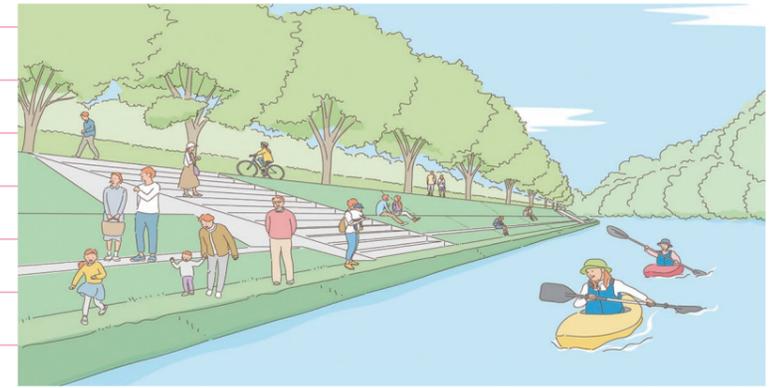
※感染症ウィルスを病院内に持ち込まないようにするため、トリアージを行うために設けられた別棟です。陰圧室とともに、私が本会議で提案して実現したものです。

※トリアージとは、災害発生時などに多数の傷病者が発生した場合に、傷病の緊急度に応じて治療優先度を定めることですが、感染症が拡大した場合には、感染の有無を検査することも含まれます。

代表質問 3 | 花見川「かわまちづくり」計画について

花見川・花島公園の水辺創出!

国からの支援を受けて、印旛沼から印旛沼放水路(花見川・新川)にかけて県と3市で連携して3箇所の水辺拠点整備を実施します。花島公園に接する花見川の護岸が、気軽に水辺に親しめる「親水護岸」となります。家族で気軽にカヤックなどのウォータースポーツを楽しむなど、より一層水と親しむことが



出来るようになります。

水辺を活かして地域の賑わい創出を目指す取組みである「かわまちづくり」を推進するため、国土交通省が平成21年度に「かわまちづくり」支援制度を創設し、市町村等からの申請にもとづき計画の登録を行い、ハード・ソフト両面から支援をしています。

「かわまちづくり」とは、地域が持つ「資源」や地域の創意に富んだ「知恵」を活かし、地域活性化や観光振興などを目的に、市町村、民間事業者、地域住民、そして河川管理者が各々の取組みを連携することにより、「河川空間」と「まち空間」が融合した良好な空間を形成し、河川空間を活かして地域の賑わい創出を目指す取組みです。



9月議会 農林水産常任委員会 漁業における「千産千消」を!



千葉県は、全国有数の農業県であるとともに、イワシの漁獲高全国第1位の銚子港を抱えるなど、漁業においても全国屈指の漁獲高を誇ります。一方で、水揚げされた魚介類を加工する事業者は減少の一途を辿っております。

千葉県としても、令和4~7年度にかけて農林水産業振興計画を策定し、多様な生産努力目標を掲げております。その中で、消費者の視点から漁業全般の進行を図るバリューチェーンの取組計画の策定を推進しています。

常任委員会では、その計画策定の状況について質疑して、千葉県で陸揚げされた魚介類が県内事業者を経由して、県内消費者に循環する仕組みづくりを構築するよう要望しました。

